

恵みと真理のニュース



2015 年 8 月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 早く親がなくなって悲しんでいた私を慰めてくださり、 病気の中でも賛美し感謝する信仰と希望を下された神様の恵みと愛に感謝を捧げます

今年23歳になる青年の姉妹です。篤実な母について私は子供の時から教会に通い信仰生活をしました。中高等部の頃親が癌で亡くなりました。思春期だった私は信仰が揺れ始めました。信じた頼る方は神様しかいなかったです。

疑いと恨みができる時切に神様に祈りました。まず信仰が揺れないように様々な生活の苦難を乗り越えるように力を与えるように切に祈りました。母が亡くなる以前には割りに経済的に生活は大変でも全ての家族が神様を信じて頼り愛し大きい不便を感じませんでした。時によって助ける神様の恵みで主の中で楽しいながら小さいことでも感謝しながら生活しました。まず、父が亡くなっても一時期神様の慰めと助ける恵みを受け苦難を乗り越えることが出来ました。

ところが、母も亡くなって急に生活が苦しくなりました。神様に導かれてならたら一日も耐えられないほど悪い状況が悪化されました。経済的な苦難よりもっと辛いのが精神的な衝撃と神様を信じる家庭で続ける苦難に対する周りの人々の視線でした。まだ、学生だった私としては神様の信仰がなかったら耐えられませんでした。神様は親を先に天国に連れて行かれましたが、その代り私の信仰を強くしてくださいました。親を再び会う日を天国の希望で悲しみを克服してくださいました。以前と違って礼拝して主と親しくなりました。神様に日用糧食を与え助けてくださる奨学金を受けて勉強を続ける事が出来ました。

高等学校を卒業して貧しい状況で進学を諦めて就職を決心しました。そして、祈りました。”神様私が良

い所に就職するように導いてください。神様は祈りを聞いて摂理してくださいました。祈りに答えられ神様の恵みに感謝しました。その後からも神様は切ない祈りに答えて神様の時になると成し遂げてくださいました。

特に家に対する祈りをたくさんしました。私は賃貸住宅で生活していましたが、期間になり家を空けないといけないう状況でした。経済的には仕方がなかったです。前が見えませんでした。信仰が揺れました。神様に祈りながら一方住宅公社に私の状況を話しました。個人住宅でもない公企業で期待しなくて懇請したらもっと長く住んでも良いと連絡がきました。神様が関係者達の心を動かしてくださいました。ひたすら主を信頼しなくて落胆した弱い信仰を反省しながら神様に悔い改め祈りと感謝祈りをしました。

揺れやすい心と信仰が弱くてすぐ抱えられなくて自分の力では出来ない問題に会うと“私も母が要るところに行きたいです。私を連れて行かれてください。苦しいです。恐くてもう生きたくないです。母と一緒に生きたいです。”と一人で話したことがあります。ところが時間が経つと主は私に世の中では優しい人が多いとおっしゃいます。何よりも神様は全能であり愛が多くて慈しみ深い主であることを深く悟らせてくださいました。

親がなくなって寂しくてもっと教会中心、礼拝中心生活をしました。教会に行くとき悲しかった私の顔が明るくなり笑いました。礼拝を捧げるときに聖霊で満たされ心を癒してくださいました。御言葉で落胆していて混乱に落ちている私を導き強くしてくださいました。当会長の牧師の説教を通して神様に慰められ力を得ました。そして、祈りして賛美し答える楽しみを享

受するようになりました。教会だけ行くと世の全ての悩みと心配がなくなりまいした。今も職場生活がいくら大変でも教会で礼拝し奉仕したら新たな力を得て抱える恵みを受けます。私は今“レクリンハウゼン”と言う病気を患っています。遺伝病で新しい遺伝が変ることによって発生し肌の中枢神経の異常をもたらす多発性神経線維腫の一種である疾患です。初めて病気を患ったときには“すぐ私が死んだらう”と考え心配しました。ところが今は神様に真に感謝をします。私の場合に特に脳には何も異常がないからです。神様は私を治療してください、どんな異常もないようにしてくださいました。本当に神様の驚くほどの恵みであり愛です。

神様の恵みに感謝する心で教会学校の余地部で教師として子供達を支えています。子供達と共に神様に礼拝し御言葉と愛で見守る事が私にはどんな事よりも楽しくと幸せになります。主を離れてはこのような愛と恵みを受け享受しこのような幸せを探せるか？主だけが私の喜び、真の希望で愛です。

“すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。（コリント信徒への手紙二 12：9.10）私が大変な時よく黙想する聖書です。



【信仰コラム】

次の質問に答えて見てください

“…弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。…。”（マタイによる福音書、16：13～17）

人は一生の間に多くの状況で幾多の質問を受けるようになってそこにいづれにしても答えをしながら生きて行きます。人が一生接する質問の中ではわざわざ誰か尋ねないとしてももう運命的にすべての人に与えられた質問があります。すべての人は例外なしにこの質問に対する返事の可否と内容によって彼の生と死の意味が変わるようになります。彼の現在と未来を永遠に決めるのがなります。その質問と言うのは何で、そして私たちが必ず持たなければならない返事が何なのか調べます。

第一に、“あなたはイエスキリストが分かりますか？”という質問です。

多くの人々がイエスキリストに関して自分それなりに判断して言います。イエスを歴史上4大の大人の中の一方であると言ってソクラテス、釈迦、孔子のような班列に置いて言う人があります。あるいはマホメットのような予言者に思う人もあります。そうであるかと思えば歴史上の偉大な教師、慈善救済者、社会改革者思想家、殉教者などと言う人もあります。キリストチャンであると言うが宗教多元主義の思想を持った者等は多くのメシアの中の一人と言います。この皆がイエス様に対して好評をするがイエスキリストの実際とは距離が遠くて無関係な話です。

イエスキリストに対して自分の次第どおりの推測と判断として分かることは誤れて無益です。聖書が啓示してありのままの知識を持たなければなりません。イエス様は神様でキリストです。聖父、聖子、聖霊の聖三位の中の一位として聖子神様です。童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の身を着て世の中へいらっしやいました。聖書に予言されたとおりの神様のみ旨を従って万民の罪を担当して十字架に釘付けの事ができなかつたら三日ぶりに復活したし、天に昇りなさいました。イエス様は彼を信じるすべての者を救われる唯一の救世主になって世の中を審判なさる審判主になります。イエス様は聖徒を連れにまたいらっしやいます。“私はイエスキリストが分かりました。”と言う時このように聖書に啓示された通りの知識を持たなければなりません。

二番目で、“あなたはイエスキリストを信じますか？”という質問です。

イエスキリストに関して分かる知識は救いを得るのに必須不可欠なことであるが、その知識だけでは十分ではないです。聖書に啓示された通りのイエスキリストを信じなければなりません。“イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。」（ヨハネによる福音書、11：25, 26）これを“あなたが信じるのか？”という質問の重大さはいくら強調しても度が外れないです。信じなくては救いを受けることができないからです。

三番目で、“あなたはイエスキリストを信じますか？”という質問です。

信仰とは信じること以上の意味を内包しています。信仰とは‘信じて任せること’です。神様に任せることも学んで訓練を受けなければなりません。任せようとする決断があつて努力を通じて学んで練習を受けなければなりません。信仰の深さが神様を信仰する段階になれば強くて胆大になります。人生に近づく問題によって信仰が揺れないし心霊の中の喜びと平安が落ち着いています。すべての問題を神様に任せるために祈るだけでなくまた任せたから感謝しながら祈ります。

四番目で、“あなたはイエスキリストを愛しますか？”という質問です。

イエスキリストが分かって、信じて、信仰することは概して神様がくださる恵みと愛を自分の物で受け入れて享受する側面だと言えます。ところでイエスキリストを愛することは神様のために自分を差し上げる側面です。このような信仰の段階になる時に神様と豊富な交わりが成り立つようになります。愛は表現されなければなりません。言葉として表現して、献身と犠牲として表現しなければなりません。犠牲がない愛の言葉と歌とは空虚なのです。イエスキリストを真実で愛したら聖徒を仕えて福音を伝えるために楽しく献身して喜んで犠牲するようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰は行いと共に働きます



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人の持った信仰は先天的で本能に属したのです。意識を持った人はその信仰を使っています。信仰はその人が習得する知識と経験を通じて強まるとか弱くなるができるし、多様な形態を持つようになります。その結果も多様です。聖書は人がどこに、どのように信仰を適用するはずなのかを教えています。信仰はまるで種子のようです。多くの種類の種子の中には驚くべき可能性と能力が潜在されています。その種子の中に美しい花と香りと蜂蜜があり、実もあります。木と森がその中に潜在されています。しかし種子を食器に持っておいている以上生産的で創造的なことが起こることができません。種子の中に潜在されている生命力と不思議な能力が現われさせるためにはその種子を植えなければなりません。私たちにある信仰もこれと同じです。信仰はどんな条件が与えられれば仕事をします。今日の本文に記録されるのを“信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ、”と言いました。完全な信仰は行いによるというお言葉です。それだけではなく“信仰は行うことと共にする時実際になって現実になる。信仰が仕事しようとすれば行うことがなければならない。”このような意味もあります。こんな観点で信仰は何とともに働くかをよく見ます。

第一、信仰は祈禱とともに働きます。

一番悪い怠惰の中に一つは祈るのを疎かにするのです。問題があれば気落ちするとか恨まらずに神様に祈らなければなりません。自分ができる最善をつくす一方神様に助けを切に求めなければなりません。イスラエル子孫は祈らなければならぬ時恨みと不平ばかりしました。しかしモセは助ける神様を信じて困難と危機に処する時祈りました。そして彼の信仰が祈禱とともに働くので現われる結果を見ました。民が紅海のうみべに陣を張っている時追撃するエジプトの軍隊が疾風のように駆けて来ることを見ました。痛しかゆしの状況で民はモセを恨みました。モセは民に言うのを“モセは民に言った、「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。」(出エジプト記、14:13)しました。それからは神様に祈りました。モセの信仰が祈禱とともに働いてその信仰どおりできるだけ神様が助けました。そして紅海の中に道を作ってイスラエル子孫が無事に渡らせた後に従うエジプト軍隊は水に浸させました。信仰を持って集中的に祈ってください。禁食しながら祈ってください。夜をあかすように祈ってください。日を決心して祈ってください。合心して祈ってください。神様に向けた皆さんの信仰が祈禱とともに働いて彼が信じたとおりに成り立つ結果を体験する楽しさがますます加えられるでしょう。

第二、信仰は神様に差し上げることと共に働きます。

聖書には信仰が差し上げて施すことと共に働く原理が啓示されています。イエスキリストがおっしゃるのを“与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量その量りで、自分にも量りかえされるであろうから”(ルカによる福音書、6:38)しました。神様の光栄のために、神様の仕事のために時間と物質と才能を差し上げることが信仰を適用する方法です。信仰が仕事させる方法です。偶像崇拜によって神様が懲罰するのでイスラエルは極甚な日照りに苦しむようになりました。予言者エリヤが神様の指示のどおりサルバツに行きました。城門であるやもめに会うとエリヤが水とパンを要請しました。その女はパンはなくて、ただ筒に小麦の粉と瓶に油が少しだけだと答えました。エリヤが言うのを“恐れずに先に私のために小さなパンを作って持って来てその後あなたとあなたの子のために作ります。エホバイスラエルの神様がおっしゃるのを‘私エホバが地の上に雨を降るその日までその瓶に小麦の粉がなくなくて、その油も乾かないだろう。’と言ったんです。”しました。その女がエリヤの話の通りしたらその女と家族たちとエリヤが共に多くの日の間食べたが、その小麦の粉がなくなくて、その油も乾かなかったです。このやもめの信仰が神様に向けた献身の行為とともに働いて奇蹟を味わわせました。神様が私のすべての使うことを満たすという信仰は神様に差し上げて隣りに施すことと共に働いてその信仰が現実化にならせます。

第三、信仰は口で言うことと共に働きます。

信仰は口で言うことと共に働いてその信仰が現実にならせます。ローマ人への手紙、10章10節に記録されるのを“人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。”言いました。言うのに気を付けるものがあります。第一は、言葉を混雑するようにしてはいけません。信仰があっても朝夕で言葉が違えばバベル城を積むことのように無駄になります。二番目は、信仰に適当な言葉を一貫性あるように言わなければなりません。三番目は、状況が悪いほど信仰に適当な言葉をもっと力をつくして言わなければなりません。信仰は言い付ける言葉と共に働きます。信仰が命令の言葉と共に働くという示しをイエスキリストが彼の弟子に見せてくれたことがあります。イエス様の地上の生涯の最後の週刊にあった事件です。イエス様がベダニから出てエルサレムを向かって行っていらっしゃいました。イエスキリストがお腹がすいているので無花果を見てその木に何があるかと思っていられましたがはっぱしか何もなかったです。イエスキリストがその木に“今から後いつまでも、おまえの実を食べる者がないように”と言われた。”弟子がこの話を聞きました。イエス様と弟子は次日朝同じ場所を通っている途中無花果が完全に乾いてしまったことを見ました。ペテロがイエス様に言いました。“先生、見てください。呪った無花果が乾いてしまいました。”その時イエスキリストがまっすぐに答えるのを“イエスは答えて言われた、「神を信じなさい。よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言いい、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないうで信じるなら、そのとおりに成るであろう。”(マルコによる福音書、11:22, 23)しました。

信仰は感謝する言葉と共に働きます。信仰は祝福する言葉と共に働きます。神様は祭司が民に祝福する仕事をするように指示しながら祝福の内容までおっしゃいました。“あなたがたはイスラエルの人々を祝福してこのように言わなければならない。願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜われるように”こうして彼らがイスラエルの人々のために、わたしの名を唱えるならば、わたしは彼らを祝福するであろう”(民 6:24-27)。聖書に記録されたお言葉を引用して祝福するもの言うことは非常に望ましいです。“わがたましいよ、主をほめよ。わがうちなるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ。わがたましいよ、主をほめよ。そのすべてのめぐみを心にとめよ。主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを墓からあがないだし、いつくしみと、あわれみとをあなたにこうむらせ、あなたの生きながらえるかぎり、良き物をもってあなたを飽き足らせられる。こうしてあなたは若返って、わしのように新たになる。”(詩篇、103:1-5)。皆さんはこのようなお言葉で他人だけではなく自分自身にも祝福するもの言うてください。信仰は口で自認めて言い付けて感謝して祝福する言葉と共に働きます。

第四、信仰は讚尿とともに働きます。

ユダ王ヨシャパテ時代に隣り国々が同盟して一度にどっと攻め寄せました。この時神様がヨシャパテ王に予言者を通じてメッセージをくださいました。“この戦争には君達の争うことがないだから行伍を成して立って君達とともにしたエホバが救援することを見ろ。”しました。ヨシャパテ王は民でいっしょに議論して讚尿する者を軍隊の前に立てて讚尿を呼んで戦場に進みました。彼らが高い地帯にのぼって敵陣がある所を見たら死骸だけでした。敵軍の間に自中之乱が起きてお互いに攻撃して殺したからです。こんな奇妙な事態がいつ起きたかすればユダ民が“主に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない”と言わせた。そして彼らが歌をうたい、さんびし始めた時、主は伏兵を設け、かのユダに攻めてきたアンモン、モアブ、セイル山の人々に向かわせられたので、彼らは打ち敗られた。すなわちアンモンとモアブの人々は立ち上がって、セイル山の民に敵し、彼らを殺して全く滅ぼしたが、セイルの民を殺し尽すに及んで、彼らもおのおの互に助けて滅ぼしあつた。ユダの人々は野の物見やぐらへ行って、かの群衆を見たが、地に倒れた死体だけであつて、ひとりものがれた者はなかった。ヨシャパテ王の信仰が彼の讚尿とともに働いた結果です。

聖徒の信仰は神様の口約束に根拠してイエス様のあがないに根拠したのです。だから聖徒のこんな信仰には驚くべき権能が内在しています。こんな信仰は祈ること、神様に差し上げること、口で自認めることそして讚尿することとともに働きます。神様は行いによる信仰に権能の手を突き出して手伝ってくれます。愛する皆さんは皆さんにある信仰が祈禱と差し上げることと口で言うことと讚尿とともに働いた結果を豊富に体験するように願います。